

## 本島修会長がレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章



当研究協会の本島修会長が令和3年4月13日(火)にフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ (L'ordre national de la légion d'honneur Chevalier) に叙され、フランス大使館公邸にて叙勲式が行われました。本島会長の近親者、関係者、招待客が見守る中、フランス共和国大統領の名において、フィリップ・セトン駐日フランス大使により、勲章が伝達されました。

レジオン・ドヌール勲章は、1802年にナポレオン・ボナパルトにより制定されたフランスの最高勲章です。シュヴァリエは騎士、勲爵士を意味します。ナポレオン時代以後にフランス政権が変わるに合わせて章飾の意匠が変更されるなどしたものの、レジオン・ドヌール勲章は運用が続けられ、第五共和政下の現在でも同国の最高位勲章に位置付けられています。フランス国民のみならず外国人にも授与され、外国の元首、首相、政府関係者、外交官、文化・科学・産業・商業・創作活動などの分野における功労者に授与されます。これまで、日本人では、古くは横山大観、そして現代では安藤忠雄氏、池田理代子氏、小澤征爾氏、高田賢三氏、広中平祐氏、向井千秋氏、毛利衛氏らが受章されています。

本島会長は、第2代国際核融合エネルギー研究開発機構 (ITER) 機構長を務められ、在任中、ITER 施設の建設の初期段階を指揮し、機器・施設的设计段階の終了後、建設のスケジュールを設定、プロジェクトに参加する国・地域で機器製作を始動させるとともに、フランス原子力安全機関 (ASN) から建設許可を取得しました。平成27年3月に退任の際には ITER 名誉機構長の名称が付与されました。また、平成23年9月にフランス・プロバンス大学 (University of Provence) の名誉博士号 (Docteur Honoris Causa) を授与されています。

叙勲式では、フィリップ・セトン駐日フランス大使が本島会長の経歴・業績、特に、フランスで取り組んできた ITER 機構長としての仕事を紹介され、本島会長が任務を遂行するために発揮した高い科学的・技術的知見、人間性、統率力に改めて触れました。本島会長は、「私の人生に於ける最高の栄誉であり、家内のかおると子ども心から湧き出る喜びを感じております。」と挨拶し、「フランスと日本がこれからも手をたずさえて fusion 発電所の建設に向かっていただくことを強く望んで止みません。」と述べました。